



発行所
 東京九嶺宮原同窓会事務局
 〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台7-21-26-508
 末永俊幸方
 電話 090-6943-8065
 印刷：泰成印刷株式会社
 電話 03-3631-8141

学びて
 思わざれば
 罔しくら

東京九嶺宮原同窓会
 会長 大崎 康博
 (九嶺24回)

囲碁の世界で、「定石を覚えて二目弱くなり。」という川柳があります。自分が定石通りに打つても相手が、定石はずれの手を打ってきたとき、どう対応するか判らず、相応の力が発揮できないことになります。定石を鵜呑みにしてその意味を考えない結果であります。

しかし、このような例は囲碁の世界だけではありません。論語に「学びて思わざれば罔し、思いて学ばざれば殆うし。」とあります。身につけた知識を鵜呑みにし、その意味を自ら深く考えることなく、マニュアル通りに物事を処理することの愚かさを指していると思われまます。

世の親は、子供の社会的な成功を目指して幼時からの英才教育に一生懸命になります。そして、知識を身につけ順調に成長し、目指す目的を達すれば、親も本人も満足します。

しかし、そのような過程で身につけた知

識、能力は、殆どが数値(点数)で測定され、評価される分野であります。

効率良く成果を上げるため、その為に必要な知識の習得に努め、それ以外の知識は無用として無視するか、更にはこのようなことに時間を潰すことは無駄だとする者さえいるやに聞きます。しかも、そのような考え方が一般化し、世間も亦同じ基準で人を評価し勝ちです。しかし、人が生きていく上で必要な能力は、これらだけではありません。知識の通用範囲、適用場面についての判断力、人との接し方、行動力、勇気、責任感等を身につけなければなりません。しかも、これらの能力(ここでは「智慧」と呼ぶ)は数値で測定できません。

人間は、能力、年齢を問わず本能的に「良し悪し」「賢愚」を判断する力を備えております。数値で計測される能力のみを身につけ、それだけで物事を判断することの間違いを直感的に知っております。計測

可能な能力(知識)以外何の取り柄もない者は、何時かは自分の無能さを知り、自信を持ち得ず落ち着かないでしょう。反対に、測定可能な能力が十分でないこと(のみ)でしか世間から評価されない人の悔しさ、遣る瀬無さは堪らないものでしょう。

先に揚げた数値で測定できない智慧が必要であることは何時の時代でも変わりありません。

以前には、智慧が必要不可欠なものであることについて当然のこととされており、隣近所の人、その他日常的に人と接する場において、これらの点は常に注視され、これを通して智慧は身についたと思えます。

しかるに、現今は、人間関係の希薄化と効率第一主義からか、これらの智慧を身につけることの大切さを忘れてはいないでしょうか。

一見普通の環境下に育った青少年(男女)が起す奇妙不可解な事件、しかるべき地位、職業にある人達が起す珍奇な犯罪等は智慧が身につけていない所謂「学びて思わざる」ことの結果ではないでしょうか。かつて「オウム真理教」の人達が起こした「サリン事件」がこのことと無関係であれば幸いです。